

西濃農林事務所の普及活動状況

平成25年6月26日現在

今月の重点活動

■大豆 全国豆類経営改善共励会で生産局長賞受賞

第41回（平成24年度）全国豆類経営改善共励会（集団の部）において、海津市の平原地域営農組合が「生産局長賞」を受賞し、6月19日に東京都で表彰式が行われた。

当組合は、暗渠排水整備に加えて明渠や弾丸暗渠の設置を行い、排水対策を徹底するとともに、適期播種、中耕培土、適期防除の実施などの基本技術の励行により、大豆の高収量、高品質、低コスト化を実現している。

農業普及課では、JAにしみのと協力し、当組合の計画的な
【表彰を受ける組合代表】
水稲・小麦・大豆の2年3作ブロックローテーションの実施、品目毎の団地化による大型機械の効率的利用について、継続的な支援を行ってきており、今後とも地域の大豆栽培の模範としての役割が期待されている。



活力ある新産地づくり

■ブロッコリー ブロッコリーの生育に即した一発基肥肥料の開発

従来のブロッコリー用一発基肥肥料は、出蕾前後の株肥大期の肥料溶出が少なく、下葉及び花蕾の黄化が発生しており、ブロッコリーの生育に即した一発基肥肥料を開発するため、全農、メーカー、JAにしみの、農業普及課により検討会を開催した。

初期溶出抑制肥料と従来の肥料を組み合わせ、各肥料の溶出パターンを確認しながら、年内採り品種用肥料及び年明け採り品種用肥料の2種類の一発基肥肥料を試作し、管内農家での実証試験を行うこととなった。

売れる農畜産物づくり

■トマト 池辺トマト組合全体研修会の開催

池辺トマト組合全体研修会が6月14日に開催され、次年度産に向けた病害虫対策、高温対策、土壌消毒、肥培管理、葉先枯れ軽減対策について、農業普及課から説明を行った。

特に、農業技術センターで一定の効果が認められたカリウム増肥による葉先枯れ症軽減対策については、その成果を産地に導入していくとともに、極端なカリウム増肥は、尻腐れ症状を誘発するため、注意が必要であることを説明した。今後は、土壌分析に基づく適切な肥培設計について指導していく予定である。

■きゅうり 天敵（スワルスキー）利用研修会の開催

海津胡瓜部会では、6月13日に天敵利用研修会を開催し、平成25年産の半促成栽培での天敵利用の栽培結果と今後の課題について検討を行った。

農業普及課では、害虫の発生、天敵の寄生状況や農薬の使用について、次作に向けた効果的な天敵利用の方法について説明した。

■夏秋なす、えだまめ 牧園芸組合なす部会、えだまめ部会目揃会の開催

空梅雨の影響により、特に露地野菜への影響が心配される中、牧園芸組合なす部会の目揃会が6月14日に、えだまめ部会の目揃会が6月18日に開催された。

なすでは、畑地での栽培で灌水施設も無いため、降雨不足の影響から果実肥大に影響があり（電球果の発生）、えだまめでも、現在収穫中のハウス栽培では、灌水施設があり影響は少ないものの、露地栽培（トンネル被覆栽培を含む）では、草丈が短い等生育に影響が出ている。農業普及課からは、干ばつ対策を含め、今後の管理について指導を行った。

■甘長ピーマン 害虫防除試験を実施中

アブラムシおよびアザミウマの多発生や殺虫剤の感受性低下により、現地では害虫対策が問題となっているため、部会役員のほか場において赤色ネットや新規殺虫剤を用いた防除に関する展示ほを設置し、害虫防除試験を実施中である。

また、ハウス栽培において、ハダニおよびうどんこ病の被害が発生しているため、出荷場へ資料を掲示するとともに、巡回において注意喚起を行った。

■なし 発生予察調査に基づく梨生産者への情報提供

ナシヒメシンクイ・コカクモンハマキ・チャハマキの発生予察調査を実施し、南若森は6月5日、曾根は6月11日、研修会において情報提供を行い、栽培支援を実施した。

上記害虫の発生はほとんど確認されず、フェロモン剤(コンフューザーN)の防除効果が確認できている。

戦略的な流通・販売

■農産加工グループ いちごジャム加工支援

5月25日に、女性農業経営アドバイザーを中心として活動している、海津市の農産加工グループ「まりちゃんジャムの会」のいちごジャムづくりが行われた。

農業普及課では、農業経営課革新支援専門員とともに加工実態調査を行い、ビン詰め方法の試作について支援した。実態調査の中から、今後の改善点などについて提案を行う。

多様な担い手の育成・確保

■新規就農者 新規就農に向けた最終準備

海津市の冬春トマトによる新規就農者は、6月末で農業経営継承事業による研修が終了し、既に新規就農計画も認定され、7月より経営開始することとなっている。経営移譲に係る合意書についても概ね作成され、農畜産公社と最終確認をする段階とのことで、概ね計画どおりに就農準備が進められている。

農業普及課では、就農支援資金の執行状況確認をJAにしみのと連携して行うとともに、栽培技術の支援を行っていくこととしている。

魅力ある農村づくり

■鳥獣害対策 捕獲された鹿の有効利用に関する先進地視察

5月22日に、西濃振興局の呼び掛けで、今後捕獲が増える鹿の有効利用方法を学ぶため、西濃地区内の猟友会会長、各市町獣害対策職員とともに、長野県根羽村のネバーランドを視察し、ネバーランドのメインシェフから、獣肉処理場、獣肉の流通方法について説明を受けた。

農業普及課からは、車中で西濃地域の獣害の状況、対策について説明し、獣害対策関係者の共通認識を高めた。



【獣肉処理場の見学】

県民みんなで育む農業・農村

■農業体験・食育等 海津市城山小学校摘蕾講習会

5月23日に、海津市立城山小学校5年生44人が、学校柿園の摘蕾作業を体験した。

農業普及課からは、摘蕾方法の説明、実演を行い、その後、それぞれ班ごとに分かれて、担当の柿の摘蕾を行った。高い枝の摘蕾は、脚立を利用して作業し、一人が作業する間、他の班員は、脚立の基を支えるなど協力して作業を行った。



【小学生摘蕾体験】